

【酒造好適米の需給状況（推計）】

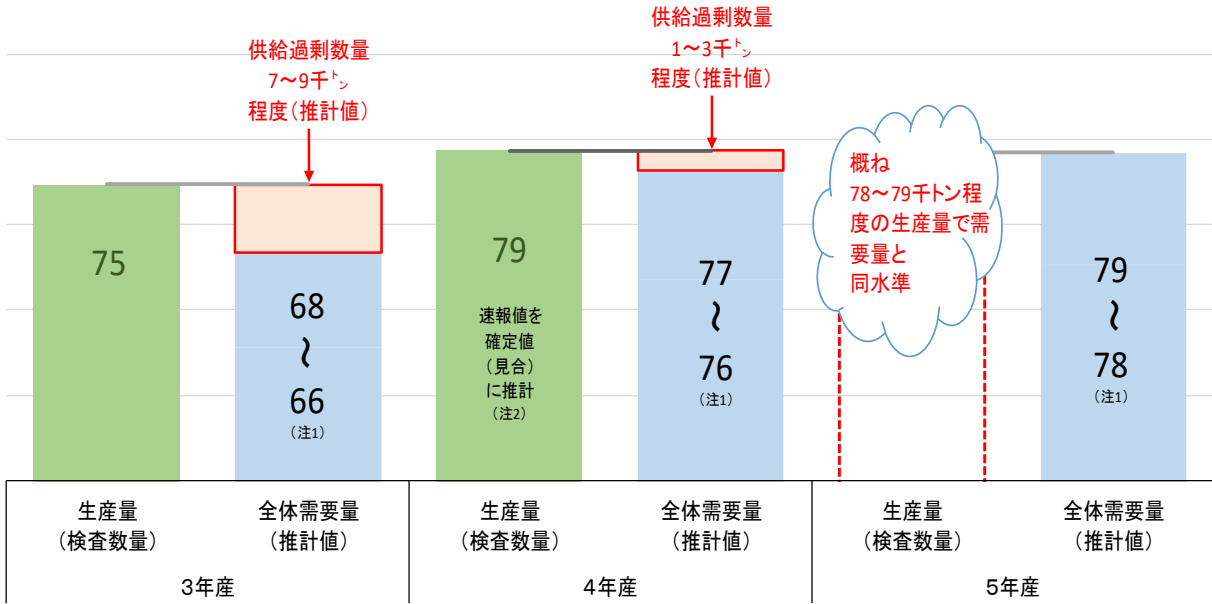
令和4年産酒造好適米の生産量を農産物検査結果から推計し、生産動向と需要動向の検証を行いました。概要は以下のページで紹介しています。より詳細な情報は、下記URLよりご参照ください。
https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

【令和4年産酒造好適米の生産状況】

- 令和4年産酒造好適米の農産物検査数量（12月31日現在）がとりまとめられ、これを元に令和4年産酒造好適米の生産量を推計したところ、令和3年産から+4千トンの79千トン程度と見込まれます。
- この結果、令和4年産酒造好適米の全体需給は、生産量が全体需要量を若干上回る状況と見込まれます。
- 令和5年産について、全体では、78～79千トン程度の需要が見込まれます。
- 令和5年産の作付けに当たっては、各産地の在庫状況並びに令和5年産の需要動向等を踏まえ、需要に応じた生産に取り組むことが重要です。

酒造好適米の全体需給状況の見通し(推計)

(単位:千トン)



注1: 生産量は、農産物検査数量(醸造用玄米)の値。ただし、令和4年産は、令和4年12月31日現在の速報値を直近3力年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計。
注2: 各年産の全体需要量(推計値)は、令和4年7月に実施した需要量調査結果から推計したものであり、それ以降の酒造メーカーにおける需給状況により変動する場合があることに留意する必要がある。

- 令和4年産酒造好適米の生産量は、直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率から79千トと推計され、令和3年産から+4千ト程度（+5%程度）と増加しています。
- 令和2年産及び令和3年産は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等も踏まえ、生産抑制を行ったことにより、生産量が減少していましたが、令和4年産は、需要量の増加に伴って生産量も増加しているものと考えられます。
- 主要な品種では、山田錦及び五百万石は増加する一方、美山錦は減少する見込みであり、産地品種銘柄ごとの生産状況には留意が必要です。

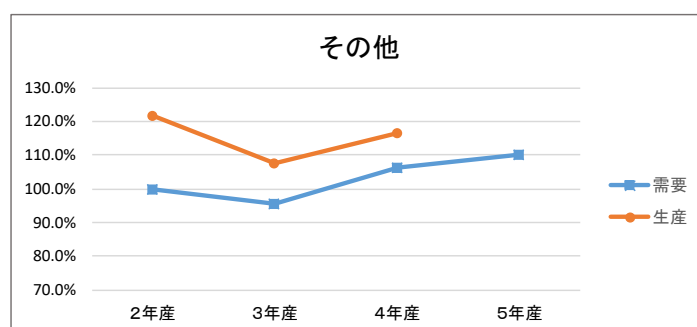
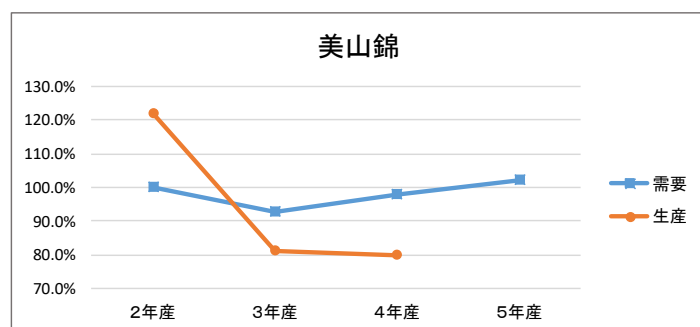
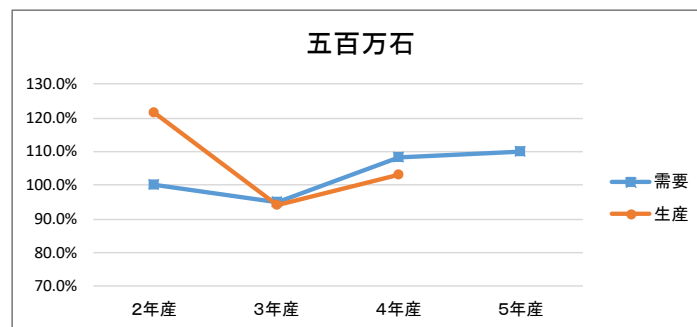
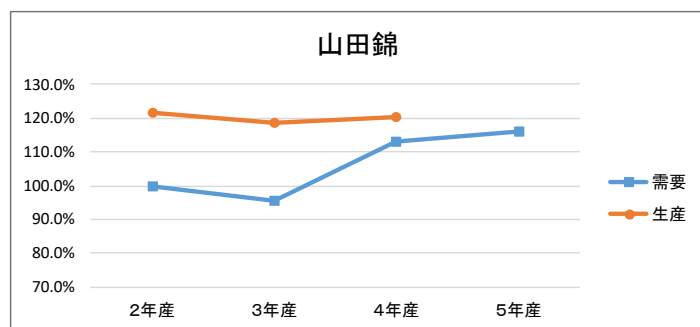
農産物検査数量（12月31日現在）及び令和4年産生産量の推計

（単位：トン、%）

品種	元年産		2年産			3年産			4年産		
	12月31日現在	確定値	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	推計値	対前年比
山田錦	33,744	34,644	27,420	28,342	81.8%	26,067	27,609	97.4%	26,928	27,992	101.4%
五百万石	17,315	19,767	15,440	17,561	88.8%	12,109	13,612	77.5%	13,110	14,865	109.2%
美山錦	6,465	6,475	5,701	5,710	88.2%	3,742	3,816	66.8%	3,730	3,760	98.5%
その他	33,576	35,567	30,404	33,565	94.4%	27,148	29,719	88.5%	29,608	32,114	108.1%
総検査数量	91,099	96,454	78,966	85,179	88.3%	69,066	74,756	87.8%	73,377	78,730	105.3%

生産量と需要量の増減率の比較試算（令和2年産基準）

- 令和2年産の需要量を基準（100%）として酒造好適米の生産量（農産物検査数量）と需要量（需要量調査報告数量）の関係を比較すると下図のとおりであり、令和2年産は生産量が全体需要量を22%程度上回っていたことから、令和2年産の生産量を122%と試算しています。
- 令和5年産に向けて、各産地においては、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量等のデータを参考にしつつ、これまでの自らの生産量や販売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、需要に応じた生産に取り組むことが重要です。

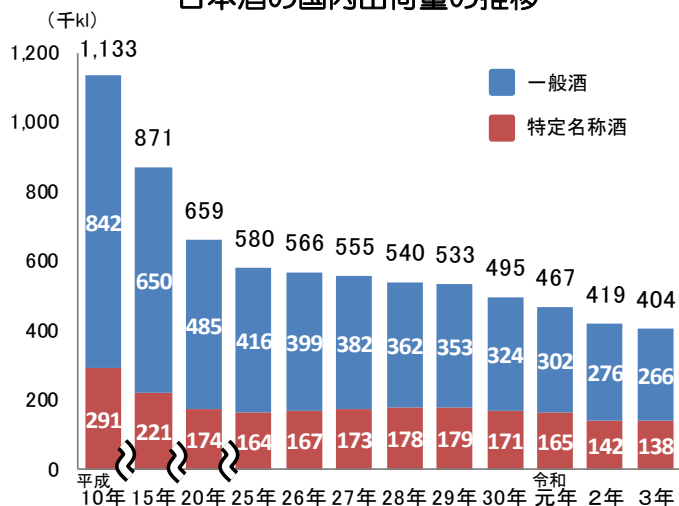


以上のほか、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率等の詳細な情報は、以下のURLを参照ください。
https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

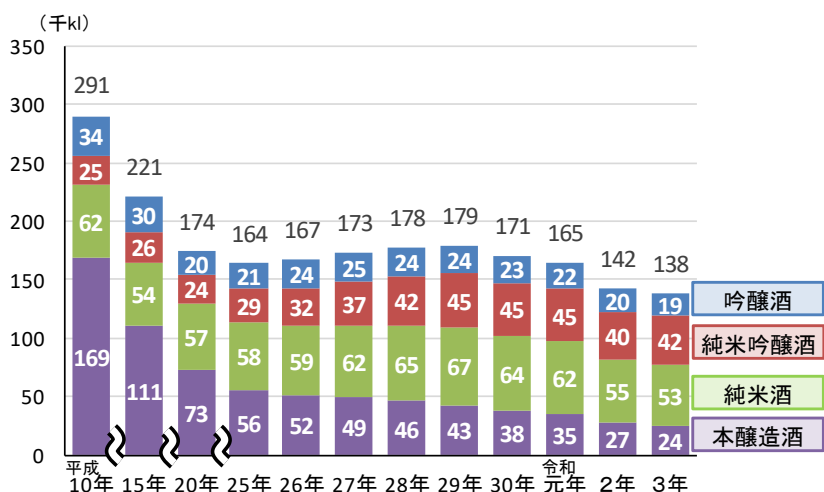
日本酒の国内出荷状況

- 日本酒の国内出荷量については、近年、減少傾向で推移しているところですが、平成30年以降は減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた特定名称酒についても減少に転じたところです。
- また、令和2年以降については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、業務用を中心に日本酒の国内出荷量が減少しており、特に酒造好適米を多く使用する特定名称酒が大幅に減少しています。

日本酒の国内出荷量の推移



特定名称酒の種類別出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

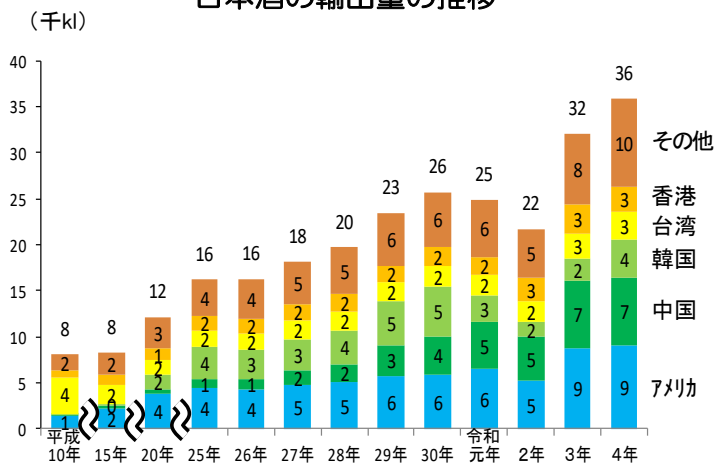
注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。

注2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

日本酒の輸出状況

- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出量については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移しており、令和2年は新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延等の影響により減少したものの、令和3年には対前年比+47%と大幅に回復しました。
- 令和4年においても、アメリカ、中国等への輸出が好調で、輸出量は対前年比+12%、輸出金額は対前年比+18%と増加しています。

日本酒の輸出量の推移



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

日本酒の輸出金額の推移

